

和牛の遺伝子情報解析に向けてサンプル収集を開始

現在、和牛の「霜降りの多さ」や「1頭からとれる肉の量」などがどれだけ遺伝するかを知るためには、子の枝肉情報が必要になるため最低でも5年程度の期間が必要です。

そこで、当センターは京都府産和牛のゲノム解析による遺伝能力解明の迅速化に取り組んでいます。本試験では、京都府産和牛の特質とされる「霜降りの美しさ」や「脂の質」を数値化し、新たに改良方針へ組み込むことと、遺伝能力予測システムの構築により、早期に高能力雌牛の選別を可能にすることを目標としています。

これらの解析には、多くのサンプルが必要となるため、京都市中央卸売市場の協力のもと、府内産和牛肉の各種情報の収集を開始しました。

今後、1000検体以上のサンプル収集や、特質の数値化に必要なプログラムの開発等を行い、最終的に令和9年(2027年)からの本格運用を目指します。



ゲノム情報取得のための
サンプル(腎周囲脂肪組織)採材



「霜降りの美しさ」解析用写真を撮影